

# CASE 3 : 現在の太陽光発電設置について

## 1 対象設備等の課題

様々な施策で地球温暖化防止に貢献してきた太陽光発電だが、状況が変わり導入するメリットがよくわからない。

## 2 省エネ改善ポイント

2010年住宅用余剰電力買取制度が始まり1kwhあたり48円であった。2012年に全量買取制度（売電）が始まり近年では1kwhあたり15円まで下がっている。

しかし、システム設置価格は2009年当方で1kwhあたり62万円だったが近年では30万円まで下がってきている。

**ポイント**→電力買い取り価格は下がっているが、設置価格も下がっている。

システム設置に係る費用は、その他次のような費用が掛かります。

- ① 東電連系負担金： 20～40万円（工事前・申請費用含む）
  - ② 東電パワコン電気代： 6万円／年程度（20年120万円）
  - ③ パワコン交換費用： 150万円（10年後1回）
  - ④ 撤去廃棄費用： 100万円（20年後1回）
  - ⑤ 保守点検費用： 20万円／4年（20年間4回80万円）
- その他経費合計：維持28万円／年



## 3 効果試算（参考）

設置容量を50kWと想定

設置面積300㎡、システム設置価格30万円／kW = 1,500万円

発電量60千kWh、低圧電力単価24円として144万円／年

資金回収資金

発電量144万円 - 維持費用28万円 = 106万円／年

\* 売電は以前ほどのメリットはないが、自家消費であれば資金回収期間は以前と大きく変わらないのでまだまだ効果的である。

### 担当者からひとこと

買取価格が低価格となったため、太陽光発電のメリットが減ったと言われていますが、設備費用も下がったため、省エネルギーには有効な方法の一つと言えます。再生エネルギーの活用は地球環境保護の観点からも有効な手段ですね。

